

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4490400068		
法人名	社会福祉法人 翠明会		
事業所名	グループホーム 敬天		
所在地	大分県日田市天ヶ瀬町女子畑234番地		
自己評価作成日	令和6年11月1日	評価結果市町村受理日	令和7年3月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	令和6年12月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・一人一人の思いを理解し、受け止め、家庭的で穏やかに過ごせるよう努めている。
 ・利用者がそれぞれの得意なことを活かし、発揮できる環境づくりを行なっている。
 ・利用者同士が話し合い、声をかけ合って共に日々の生活を楽しめるように支援している。
 ・自然に恵まれたのどかな環境で、季節ごとの花植えや山菜採り、畑での野菜作り、収穫など職員と一緒にこなしている。
 ・地域民生委員等に協力による交流会「よらん会敬天」の開催も、ここ数年は感染症の予防のため実施できていない。再開の希望もあることから今後は細心注意を払いつつ交流の機会が持てるよう、努力していきたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・自然が多く、開放的で事業所の前にはみかんの木があり、秋には収穫を一緒に楽しむことが喜びとなっている。
 ・季節毎の野菜作り、山菜採りなど利用者の出来る事を一緒に取り組んでいる。
 ・職員が明るく接している姿が利用者を安心して穏やかに過ごせる原点となっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼で理念を復唱していたが、コロナ禍で中止している。朝のミーティングでも申し送りをした後に理念を共有して実践につなげている。	理念を玄関ホールに掲示。ミーティングで理念を振り返り一人ひとりの思いを受け止める様に共有し、ケアに取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	感染症予防のため、ほとんど参加ができていない。	対面での交流は以前ほどではないが時々野菜や芋などを地域の方が差し入れしてくれる。パン屋さんが来てくれる様になり、一緒に食べる事もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ここ数年は感染症予防のため実施できていないが、以前のように地域の独居の方との交流会を再開したい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍により、何度か書面での開催を行った。開催できた月は、行事や利用者の状況、今後の予定や研修、避難訓練等の報告をし、行政や地域の代表、家族からの意見や要望等を話し合い、サービス向上につなげるように努めている。	運営推進会議は対面で開催。家族の出席もあり事業所の取り組みや利用者の状況等の報告をして、出された意見は職員で検討してサービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の際や、その他の諸手続き等に随時相談や意見等を求めている。	運営推進会議に初の担当者の出席があり取り組みや状況を伝えながら、情報提供やアドバイスをもらうなど日頃から連絡を取る様に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	理念や研修、身体拘束廃止委員会等で身体拘束を行わない行わないケアの理解はできている。日中は施錠をせずベット柵も起き上がりが必要な最小限で行なっている。センサーマットの必要な方はご家族に説明し承諾を頂き設置している。	身体拘束廃止委員会等で身体拘束を行わないケアの理解をしており、ケアに取り組み共有認識を図っている。安全の為のセンサーマット使用は家族に説明し理解を得られるよう務めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修や職員会議、ミーティング等で話し合い、虐待の理解に努め実践している。		

事業者名:グループホーム敬天

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者、全職員が研修を受けている。必要な時は家族と話し合いながら活用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時、重要事項説明書に沿って説明し、理解していただいた上で契約締結している。変更がある場合はその都度説明し承諾をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族との日常的なやり取りや連絡時などで得た意見や要望等を、随時ミーティングなどにて話し合い、取り組んでいる。	毎月家族に日頃の様子の写真や便りを送る際にアンケートを取ったり、意見や要望を聞き運営に反映させるよう努めている。出された意見や要望はミーティングで話し合い反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の併設施設との職員会議(書面開催を含む)、グループホームでのミーティング等で話し合い、改善に努めている。	管理者はミーティング等の話し合いで出た意見や提案に対し相談し、理由を聞き改善に反映している。コミュニケーションがとれている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人の希望をすべて反映することは難しいかもしれないが、できるだけ個人の家庭環境等に配慮し、希望の休暇や職場の労働環境など生きがいを持って就労できるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内外の研修や職員それぞれの得意分野などを活かせるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会(年6回開催)に可能な限り参加し、他施設の情報や合同の研修会等を行っている。協議会で研修会を考えているので開催時には参加したいと思っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日頃より利用者の希望や意見をよく聞き、受け止め安心して暮らせる環境作りに努めている。日々の会話の中での情報や様子の変化を見逃さないようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人の思いや家族の希望、要望を理解し、支援方法を面会時や電話で話し合い、不安の解消、家族の信頼を得るように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者や家族に聞き取りをし、適切と思われるサービスを提供するように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者のできることや特技、知識を活かし、共に作業を行うようにしている。家族のように接し、家庭にいたような環境で生活ができている。コロナ禍のため一緒に食事はできていない。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍により家族との外出や外泊など中止していたが、9月より家族との外出ができるようになった。電話の取次ぎや制限付での面会等で支援している。また、近況などはメールや電話、写真等で家族に随時報告している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	話しを傾聴し、本人の話しや要望等を随時確認しながら可能な限り継続していけるように努めている。外出ができない時期は、外を見たり、写真を見て思い出の話しをしている。	コロナ禍以降、直接的な交流が難しい中DVDを見ながらの会話や友人からの様子伺いの電話などの関係が途切れない様支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	声をかけ合ったり、誘い合ったり、一緒に作業をするなど互いに助け合うことで関わりを深めている。また、気の合う仲間や同様の趣味、レクリエーション等を通じて楽しんで交流できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	体調悪化や身体的低下等にて入院、特養入所などスムーズに移行できるように可能な限り相談に応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話や表情の変化、体調の変化など様子を見ながら本人の思いを家族、職員全員で話し合い、本人の思いに添った生活の実現、不安の解消に努めている。	日々の関わりの中でコミュニケーションを図り、思いや意向の把握に努めている。「家がどうなっているのか。」と気になる利用者は本人の思いに寄り添い、故郷訪問を検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の生活歴や状況を利用者や家族、担当ケアマネの情報などをもとに、職員間で話し合い、共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の身体や精神的状況を把握し、意思を尊重し、その人のペースで過ごせるよう支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	6ヶ月毎にケアプランの見直し、評価を行っている。担当者会議で担当職員とともに関係職員で話し合っている。また、本人や家族の要望等も取り入れている。	半年ごとにケアプランの見直し、評価を行っている。状況が変われば、都度見直して柔軟に対応して、家族の意見も聞きながら現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア日誌や毎日の個人の記録、バイタルチェック、食事や排泄の状況変化があればその都度話し合い、伝言表などを活用し情報の共有をしている。必要な場合はケアプラン変更を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人一人の状況の把握や家族との関係性を理解し、寄り添うケアを目指している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で行事への参加はできなかったが、地域住民との交流を通してできる限り地域活動に協力できるよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所以前のかかりつけ医の受診を基本としているが、家族の希望も取り入れ支援している。	本人及び家族の希望を大切にかかりつけ医を選んでいる。協力医に変更する方もいるが、基本希望を聞いて支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎朝のバイタルチェックの変化や、体調不良時は併設施設の看護師に報告、相談をし異常時には家族に連絡、病院受診をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の生活状況や医療情報を共有、主治医や相談員と相談、対応ができるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時や機会があるときに緊急時や重度化した時の対応についてを家族に説明し、家族の意向を確認している。家族、本人の意向を関係職員で話し合い共有している。	重度化した場合や終末期のあり方について初期段階で家族の意向を確認し説明で方針を共有して支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の連絡体制、対応について定期的に話し合い、個別のファイルを作成し、緊急時に備えている。研修やミーティング等で随時緊急時に備えての確認を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	コロナ禍のため併設特養との毎月の合同避難訓練が行えない時には、事業所独自の訓練を行った。	毎月事業所独自で訓練を行っている。連絡網も整えられ備蓄も三日分ある。協力体制については、運営推進会議でも協力を呼び掛けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄や入浴等本人の意思を尊重し、無理強いない支援を心がけている。また、職員間で互いに話し合い尊厳を守るよう努めている。	一人ひとりの人格を尊重し、声掛けにもさりげない気配りをしている。その人その人に合った尊厳を大切にされた対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の様子や会話の中から思いを聞き、本意を理解し、職員間で情報を共有、支援するよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人のペースで過ごして頂けている。、入浴や食事時間が決まっていることもあるが、自由に過ごせる時間を尊重している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好きな服や来たい服を選べるよう支援している。2ヶ月に1回の美容カットでは訪問美容師が本人の意向を聞いてカットしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	感染予防により制限はあるが、一緒に食材の下ごしらえや、配膳を行っている。片づけやテーブル拭きなども自分の役割として行っている。畑でとれた野菜や季節の山菜など旬の食材を美味しく食べられるように工夫している。	食事が楽しみなものになる様に誕生日には職員の手作りケーキや毎週火曜日には事業所内で好みを聞きながら料理し、皆も楽しみにして喜ばれている。お花見の時期には弁当を作り食を楽しむ支援がされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の管理のもと、バランスのとれた食事が提供できている。介助の必要な利用者は、さりげなく声掛けを行ない、できる限りの自己摂取を支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの声かけと、一部介助を行っている。毎月1回歯科衛生士による口腔ケアと衛生指導を受けている。歯科受診はかかりつけの歯科医院を受診している。		

事業者名:グループホーム敬天

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録で本人のパターンに添った排泄誘導や声かけを行っている。声かけや誘導の仕方を職員間で話し合い、その人に合った支援を心がけている。	自尊心に配慮し排泄パターンを把握している。声掛けや誘導での排泄や自立に向けた支援を行っている。枕元に水筒を準備したりと気使いもある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表で排便の様子を確認し、体操などで身体を動かしたり、食事内容や乳酸菌の摂取、水分量に注意し改善を促している。また処方による服薬でも改善に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の時間帯はある程度決まっているが、意思を尊重し回数も多少異なる。声掛けや支援方法など職員間で随時話し合い、状態や状況に合った対応、支援を心掛けている。	週3回入浴を基本としている。入浴を嫌がる時には無理強いをせず、希望を聞き変更している。冬至にはゆず湯にしたりと季節を感じられる様に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室でお昼寝をしたり、リビングで休憩する利用者もいて自由に過ごしている。室温や布団の調整等、本人の希望に沿って支援を行っている。愛用の家具、布団や敷毛布なども個々で使用している。就寝時間はそれぞれで違っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬情報をすぐに確認出来る場所に設置、変更があった時はその都度連絡、周知している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意なことや趣味が活かせるように支援している。畑仕事や歌、ゲーム、編み物、作品づくり、書道、生花などを職員とともにやっている。毎日の体操やレクリエーション、個人の誕生日には手作りケーキでお祝いしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	春は屋外で花見をしながらお弁当を食べたり、周辺散策を随時行っている。コロナ禍で外出できなかったが、外出できるようになり、感染予防に努め外出支援を行った。	事業所の庭先にあるみかんの収穫や野菜作りなど野外活動の支援をしている。桜の木や植木が多く散歩での外気浴など積極的に支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭は職員が管理しているが、判断がある程度可能な利用者については、家族や本人とも相談の上、必要時には要望に応えるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や知人からの電話や、本人が電話をかけたいと希望する場合は、自由に話ができるように支援している。手紙やハガキのやり取りなども、手助けを行いながら積極的に支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自由に行動できるよう、動線に障害物がないか常時確認している。共有空間はみんながリラックスできるような環境づくりを心掛けている。季節の花を飾ったり、季節行事にまつわる装飾品などで季節感を味わえるよう努めている。	対面式のキッチンで生活感があり。香りや様子もわかり家庭的である。日当たりが良く椅子やソファがあり広い窓から四季折々の景色を眺めながらゆっくり過ごせる空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日中は食堂やリビングで過ごされている事が多い。日向ぼっこが好きな利用者や居室で昼寝をする利用者など、利用者同士が仲が良くそれぞれ自由に居心地の良い工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時や入居後にも必要なものや使い慣れた家具を設置している。家族や本人と相談しながらできるふあけ好みの配置になるよう心掛けている。転倒や事故防止のため、動線には十分配慮している。	使い慣れた家具やソファ、テレビなど持参でき、写真や本人の好みのものが飾られ、居心地よく過ごせる工夫がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗面や手すり、椅子、テーブルの高さは使いやすいように設計されているが、個人によってはクッション等で調整している。トイレは車いす対応の比呂だが確保できており、手すりや安全バー、タッチセンサーでの給水などの工夫がある。		